

数学科学習指導案

実施学級 第2学年4組20名
 実施日時 令和7年11月18日 5時限
 実施場所 2年4組教室
 指導者 大西 祥悟

1 単元名 図形の調べ方

2 単元目標

- ・平行線や角の性質を理解させる。
- ・多角形の角についての性質を見いだす。
- ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解させる。
- ・平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認説明させる。
- ・三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめさせる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・平行線や角の性質を理解することができる。 ・多角形の角についての性質を見いだすことができる。 ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解することができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認説明することができる。 ・三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。

4 単元全体の指導計画（全15時間）

第一次	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ /15	授業名	平行と合同
		ねらい	角と平行線の性質や多角形の角の性質を理解し、
		「深い学び」への指導ポイント	既知のものや直感的にわかる性質に対して、どうしてその性質が言えるのか、考え方に目を向けるように指導する。
第二次	⑨⑩/15	授業名	図形の性質の利用
		学ねらい	平行線や角の性質、三角形の合同を利用し問題を解くことができる。
		「深い学び」への指導ポイント	解き方を考える活動を取り入れることで、今までに学習した知識を活かして問題を解くことができることを実感させる。また、解き方を共有することで、答えを導く方法は様々であることに気づかせる。

第三次	⑪⑫⑬⑭ ⑮/15	授業名	証明
		ねらい	すでに正しいと認められていることがらを根拠として、仮定から結論を導くことができる。
		「深い学び」への指導ポイント	操作や実験などの活動を通して、直感的に理解できるようにしたり、図形の証明や関係を演繹的に考察し表現する活動を取り入れる。

5. 本時（第二次 1時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	角の性質や平行線の性質を活用して、へこみのある図形の角の大きさを求めることができる。	考え方をペア学習などを用いて共有する。演習問題では難易度別に問題が選択できるようにする。
思考力、判断力、表現力等	既習事項をもとにして、平面図形の性質を確かめ説明することができる。	必要となる既習事項をスライドで共有する。他者を参照し問題が解けるようにスライドを活用する。

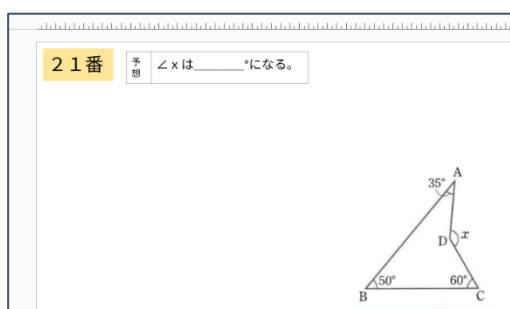
(2) 教材

教科書、ノート、タブレット端末、TV モニター

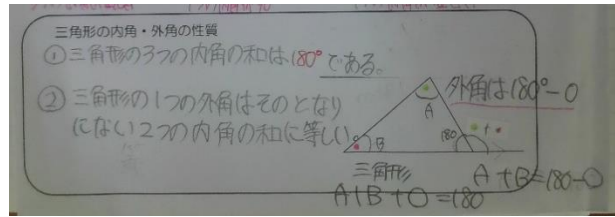
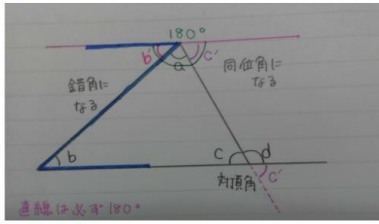
(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	考え方を発表する場面を設け、全員で理解を深める。その際、まとめたスライドをモニターに映す。
個別最適な学び	本時の内容で必要となる既習事項を、すぐに確認できるようにスライドにリンクを貼り共有する。演習問題で難易度別に問題を用意し、自分で解く問題を選択できるようにする。
協働的な学び	考え方を言葉でまとめる場面を設定する。その際、スライドを活用し、他者の考え方を参照できるようにする。スライド上で共有したり、実際に相談したり、自分で学び方を選択する。また、まとめたことをペア学習を行い共有する。

(4) 補足資料



36番



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
外角の性質や三角形の内角の和、平行線の性質など既習事項を用いて、初めて見る角度の大きさを求めることができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> 小問題プリントをする。 本時の学習課題を知り、予想を立て、スライドに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ルーティーンワークとして、小問題プリントを活用し、基礎基本の定着をはかる。 答えが何度になるかを予想するように促す。根拠がなくても、直感的な答えで良いことを伝える。 	個別	

<p>展 開 35 分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> へこんでいる角度は何度になるだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の答えを求めるために、前時までのノートや教科書を活用して既習事項を復習する。 ・既習事項をもとに答えを導き出す。 ・解き方や考え方をスライドにまとめる。 ・別の解き方を考える。 ・まとめたことを共有する。 ・色々な図形の角度を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを導くために必要な既習事項の板書、ノートをスライドにリンクを貼り、いつでも参照できるようにする。 ・まとめ方に迷っている生徒に、他の人のスライドを参照するよう助言する。 ・別の解き方がないかを考えるように促す。 ・ペア活動でまとめたことを共有させる。 ・何人かに発表させる。 ・難易度別に問題を用意し、どこから挑戦するかを自分たちで選ぶように伝える。 ・机間指導を行い生徒に解き方を助言する。 	<p>個別 協働</p> <p>協働</p> <p>一斉</p> <p>個別</p>	<p>Google スライド 【ヒントの提示】 【意見の共有】</p> <p>Teams 【課題を提示】</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 			<p>スプレッドシート 【振り返り】</p>